

press release

## 国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館 特別展のお知らせ

日ごろよりお世話になりありがとうございます。

湯浅八郎記念館では、9月10日より、以下のとおり展覧会を開催いたします。

ご案内にお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

### 特別展「夜具——夜のしつらい」

#### YAGU: Japanese Bedding Items

夜具やくとは、就寝ふとんに用いる蒲団、毛布、枕など、いわゆる寝具のことです。しかし今日のような綿入りの蒲団を掛けて寝る習慣が見られるのは近世も終わりになってからで、それ以前の人々は畳やゴザを敷き、日中身につけていた着物ふすまや衾よぎと呼ばれる掛け物にくるまって睡眠をとっていました。大きな着物の形の、綿を入れた「夜着」が登場するのは、桃山時代です。袖はあるものの手は通さず、襟えりの部分が体に沿ってすきまを作らないため暖かく眠ることができました。

江戸中期以降、関西で四角い掛蒲団かけぶとん おおぶとんの「大蒲団」が作られるようになると、夜着は次第に姿を消していきます。一方、関東から東北では、より小型の「搔卷かいまき」が近年まで使われました。江戸時代には木綿の栽培が盛んになり、夜具あいにも藍で染めた木綿製のものが見られるようになりますが、庶民にとっては高価でまだ手に入れることが難しく、多くは嫁入り支度など特別なときに逃あつらえる品でした。蒲団を覆う「夜具地やぐじ」には、使い古した端裂はしきれを継ぎ接ぎつ はしたものから、和紙の糸で織った紙布しふ、各地で高度な技術を誇ったかすり 紘、吉祥の文様をあしらった型染、大胆な模様を染め抜いた筒描など、さまざまな技法で仕立てたものが残っています。

本展では、当館の収蔵資料の中から夜着や夜具地とうかくのほか、夜を過ごすための灯火具などを展示し、かつての寝所の様子を探ります。明るい日中の生活道具と異なり、未だ分からないことも多い夜のしつらいの一端をご紹介します幸いです。

**展覧会名：**特別展「夜具——夜のしつらい」

YAGU: Japanese Bedding Items

**会場：**湯浅八郎記念館 2階 特別展示室

**会期：**2019年9月10日（火）～11月8日（金）

**開館時間：**火～金曜日 10：00～17：00／土曜日 10：00～16：30

**休館日：**日曜、月曜、祝日（ただし、11月3日・4日は大学祭のため、12:00から16:30まで特別開館）

**入館料：**無料

**展示資料：50点**

やくじ たんばぬの よせざれ かすり かたぞめ つつがき しふ  
夜具地（丹波布、寄裂、緋、型染、筒描、紙布）21点

よぎ つつがき かたぞめ  
夜着（筒描、型染）9点

枕 4点

とうかく まるあんどん かくあんどん はこあんどん ありあけあんどん ぼんぼりてしよく  
灯火具（円行灯、角行灯、箱行灯、有明行灯、雪洞手燭）8点

浮世絵 5点

書籍 3点

**交通：**JR 中央線三鷹駅および武蔵境駅より小田急バス「国際基督教大学行」終点下車

または武蔵境駅南口よりタクシー10分

**関連イベント：**第107回公開講座「歌舞伎は〈夜〉をどう描いたか」

講師 矢内賢二氏（国際基督教大学上級准教授）

日時 2019年10月26日（土）14：00～15：30

会場 湯浅八郎記念館エントランスホール

聴講無料・予約制

**お問い合わせ等**は以下までお願いいたします。

国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館（担当 具嶋恵 ぐしまめぐみ）

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL:0422-33-3340 FAX:0422-33-3485 E-mail:gmeigumi@icu.ac.jp



よぎ つるまる つつみ  
●夜着 鶴丸に鼓文 明治～大正



やくじ よせざれ  
●夜具地 寄裂（部分）



ありあけあんどん  
●有明行灯 2種

画像データ（カラー）をご入用の場合は、ご遠慮なくお申し付けください。